

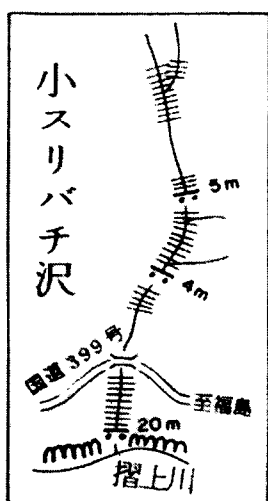
# 小スリバチ沢

文(身)発

一九八三年六月四日

一六時一五分、下降開始。一〇分程下ると細い流れに突きあたり、更に五分程で本流(ブツシュにおおわれた細い流れでしかない)に出る。ここで、一応ブツシュから解放された。

この沢も水はチヨロチヨロと流れているだけである。しかし、この沢の水も完全に濁れてしまうことはな



さそうだ(サンシヨウウオがいる)。少し下ると五箇の滝に出る。右岸に足場が刻まれているので、楽に下る。この沢も伐採作業の時の通り道

# 赤津沢左俣

文(身)発

一九八三年六月四日

一五時三〇分、遊行開始。五箇滝は真中の水の流れていない所を直登し、五分で二俣まで行きつく。左俣に入るとすぐ五箇の滝が出てくる。直登する。その先にも滝が続く。そして一〇箇滝。これは左岸を

となっていたのであろう。

下降するにほど良い傾斜のナメが続いて順調な下りである。次の四箇滝も右岸に足場が刻まれていた。一六時四五分、国道三九九号に出て下降終了とする。(一六時一五分)「タイム」下降開始(一六時一五分)↓下降終了(一六時四五分)

捲いて上に出る。ここまできたら水量は急減した。そしてその先の五箇滝の左岸を捲いて上に出た所で、水の流れは消えてしまった。その中を沢は細いトイ状となつてなおも続いている。